付　録
数字でみる札幌の子どもたち

1　アンケートでみる子どもの気持ち

札幌の子どもたちの気持ちの一端として、別冊「子どもの気持ち・あなたの子ども観アンケート調査結果に関する報告書」から、札幌市内の全児童会館(ミニ児童会館を含む)及び青少年センターを利用した小・中・高校生等、並びに子ども会リーダー研修に参加した小・中・高校生を対象として実施した「子どもの気持ちアンケート」の結果を一部抜粋してご紹介します。※

(1)自分のことが好きか

自分のことを好きかたずねたところ、小学生、中学生以上ともに「どちらともいえない」が60%以上と高くなっています。また、小学生では、「好き」が「嫌い」を18.8ポイント上回っているのに対して、中学生以上では、「嫌い」が「好き」を1.9ポイント上回っています。

図１－１　小学生(N=3,287)

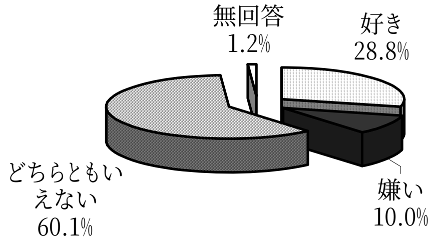
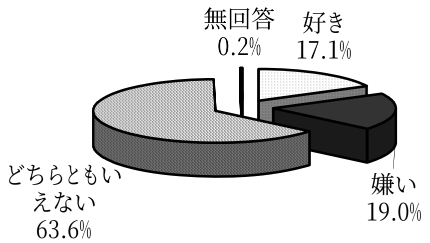


図１－２　中学生以上(N=945)



(2)今、悩んでいること(上位５位まで)

今、悩んでいることをたずねたところ、小学生では、「普段の勉強」が35.7%と最も高く、次いで「お金のこと」が27.3%、「友達のこと」が24.1%となっています。一方、中学生以上では、「受験や進路」が45.4%と最も高く、次いで「普段の勉強」が43.2%、「将来のこと」が36.2%となっています。

図１－３　小学生(N=3,287)

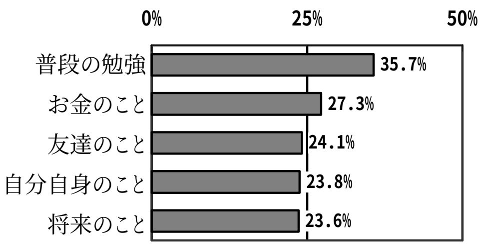
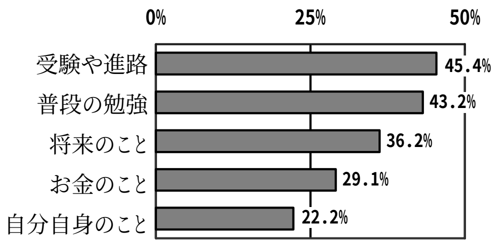


図１－４　中学生以上(N=945)



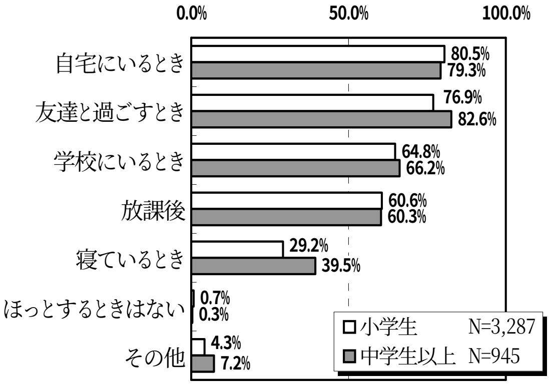
※複数回答

※札幌市子どもの権利条例制定検討委員会は、懇談会及び出向き調査の実施に併せて、子どもと大人を対象にアンケート調査を行った（有効回答数は、2,254人、うち子ども431人、大人1,823人)。
付録に掲載したデータは、札幌市が本委員会作成によるアンケートを札幌市内（10区）の全ての児童会館・青少年センターの利用者並びに札幌市子ども会リーダー研修に参加した子どもを対象として実施した結果である（有効回答数は、4,232人、うち小学生3,287人、中学生以上945人)。

(3)楽しく、ほっとする時

楽しく、ほっとする時をたずねたところ、小学生では、「自宅にいるとき」が 80.5%と最も高く、次いで「友達と過ごすとき」が 76.9%となっています。一方、中学生以上では、「友達と過ごすとき」が 82.6%と最も高く、次いで「自宅にいるとき」が 79.3%となっています。

図１－５　楽しく、ほっとする時



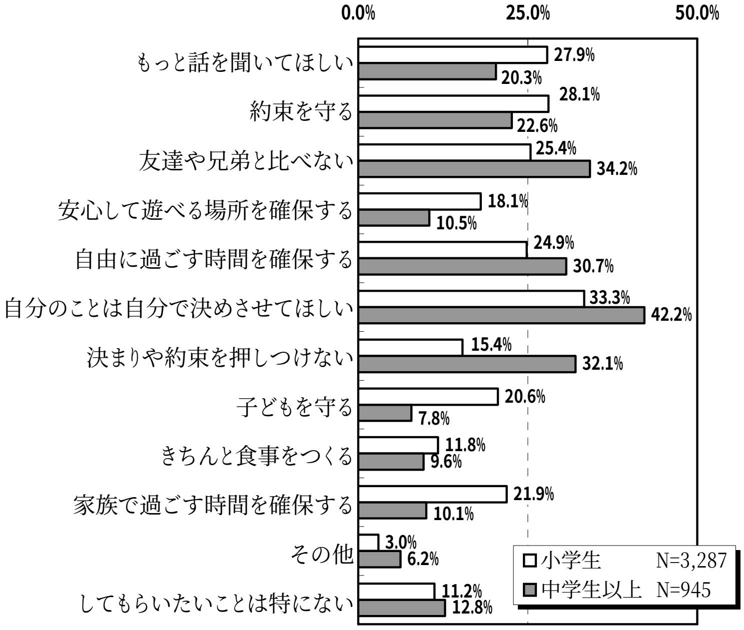
※複数回答

(4)大人にしてもらいたいこと

大人にしてもらいたいことをたずねたところ、小学生、中学生以上ともに、「自分のことは自分で決めさせてほしい」が最も高く、それぞれ 33.3%、42.2%となっています。次いで、小学生では、「約束を守る」が 28.1%、「もっと話を聞いてほしい」が 27.9%となっており、中学生以上では、「友達や兄弟と比べない」が 34.2%、「決まりや約束を押しつけない」が 32.1%となっています。

なお、「してもらいたいことは特にない」は、小学生、中学生以上ともに 10%以上となっています。

図１－６　大人にしてもらいたいこと



※複数回答

2　統計でみる札幌の子どもの現状

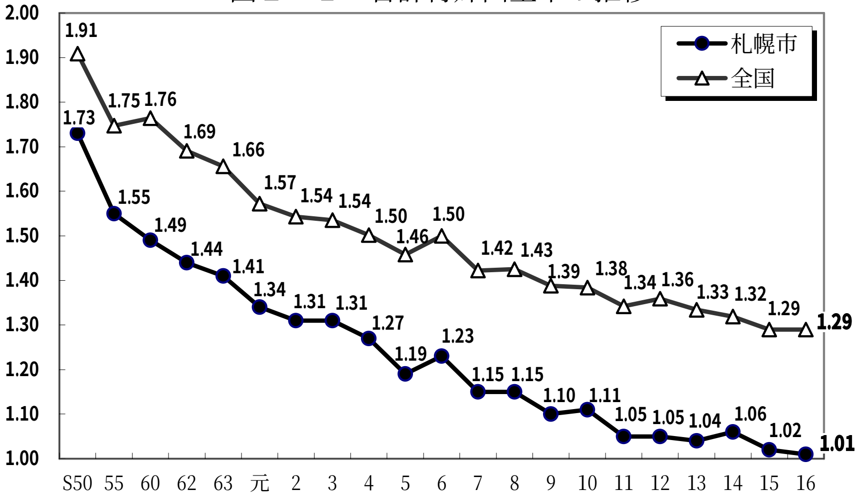
各種の統計データから、札幌の子どもたちの現状を紹介します。

(1)学校や施設に通学・通所する子どもの数

①札幌市の合計特殊出生率

札幌市の合計特殊出生率は年々低下し、平成 16 年は、1.01 となっています。

図２－１　合計特殊出生率の推移



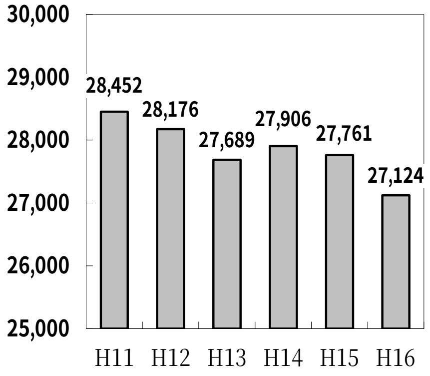
《資料》「人口動態統計」(厚生労働省), 札幌市

②幼稚園・保育所・児童・生徒数の推移

札幌市の幼稚園児の数は、年々減少し、平成 16 年度では、27,124 人となっています。

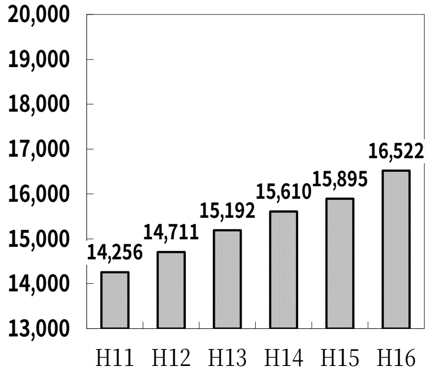
一方、保育所に通う子どもの数は、年々増加しており、平成 16 年度は 16,522 人となっています。

(人) 図２－２　幼稚園の園児数



《資料》学校基本調査

(人) 図２－３　保育所の園児数



《資料》札幌市　子育て支援部保育課

少子化の進展によって、札幌市内の市立小･中学校の児童生徒および高等学校の生徒は、年々減少しており、平成 16 年度では、小学生が 95,623 人、中学生が 48,817 人、高校生が 53,693 人となっています（普通学級の在籍者）。

図２－４
小学校の児童数

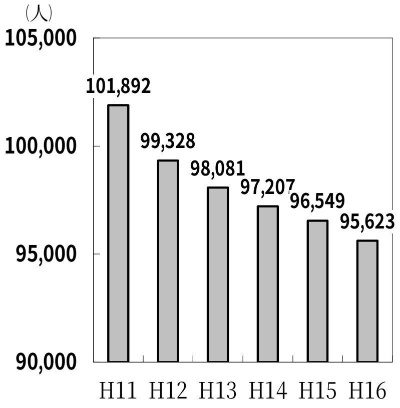


図２－５
中学校の生徒数

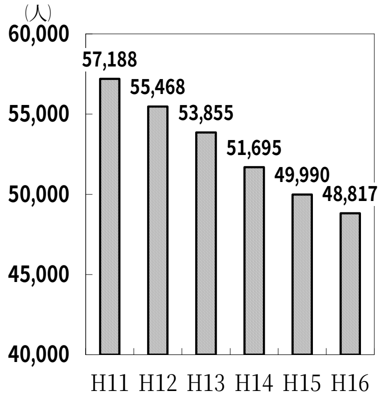
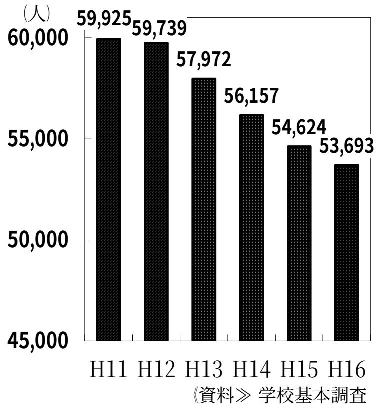


図２－６
高等学校の生徒数



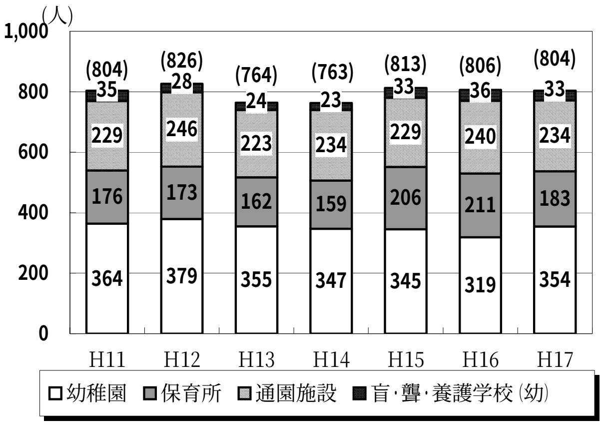
《資料》 学校基本調査

③障がいのある子どもの推移

障がいの(疑いの)ある幼児は、幼稚園、保育所、障がい児通園施設及び盲・ろう・養護学校幼稚部等に通っています。

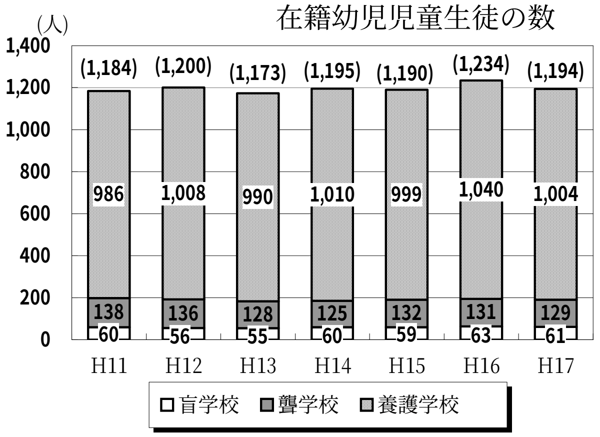
就学後、障がいのある児童生徒は、それぞれの年齢段階に応じて、小・中・高等学校(小・中学校の特殊学級、通級による指導を含む)、盲・ろう・養護学校小学部・中学部・高等部において特別な教育的支援を受けており、このうち、義務教育段階で、盲・ろう・養護学校及び小・中学校の特殊学級、通級による指導の対象となっている児童生徒は、約 2 千 2 百人であり、全学齢児童生徒数の約 1.5%です。

図２－７
障がいある幼児の推移



《資料》札幌市教育委員会

図２－８
盲・ろう・養護学校(幼稚部･小学部･中学部・高等部)
在籍幼児児童生徒の数



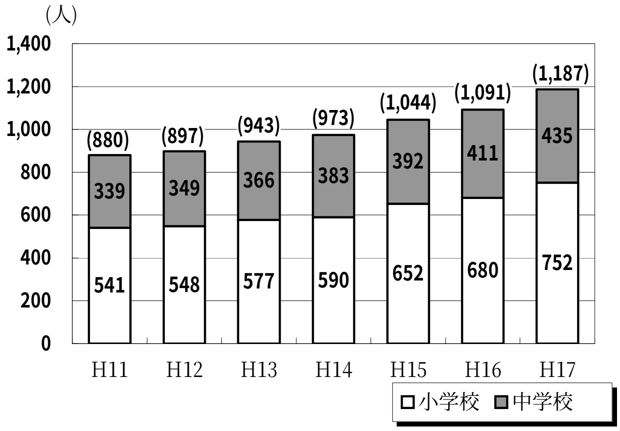
《資料》札幌市教育委員会

通級指導教室に通う子どもは、小学校・中学校合わせて 417 人となっています。

市立の養護学校に通う子どもは、小学部、中学部、高等部を合わせて 261 人となっています。また、特殊教育諸学校に通う子どもは、幼稚部、小学部、中学部および高等部を合わせて 1,194 人となっています。

図２－９

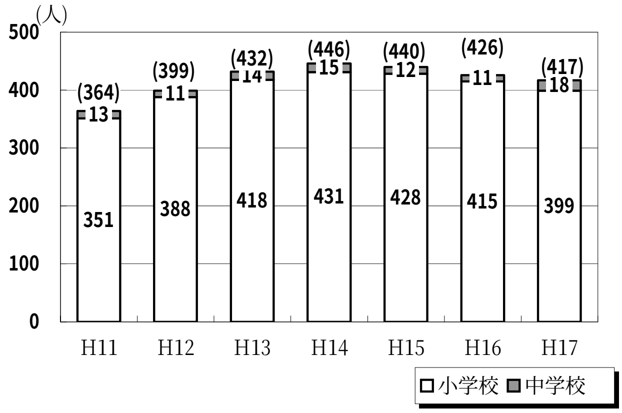
小中学校の特殊学級在籍児童生徒数の推移



《資料》札幌市教育委員会

図２－10

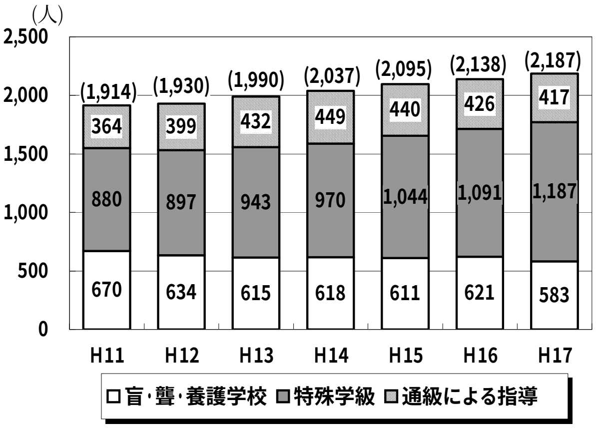
小中学校の通級による指導対象児童生徒数の推移



《資料》札幌市教育委員会

図２－11

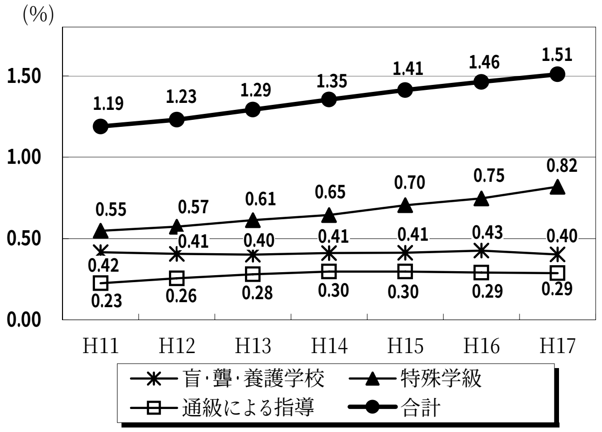
盲･ろう･養護学校、小･中学校の特殊学級･通級による指導対象となる児童生徒数の推移(義務教育)



《資料》札幌市教育委員会

図２－12

図２－11 の児童生徒の全学齢児童生徒に占める割合



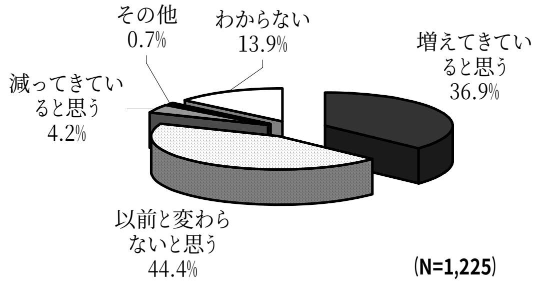
《資料》札幌市教育委員会

（2）いじめ

市政世論調査によれば、子供同士による「いじめ」については「増えてきていると思う」が36.9%、「以前と変わらないと思う」が44.4%で、「減っていると思う」は4.2%となっています。

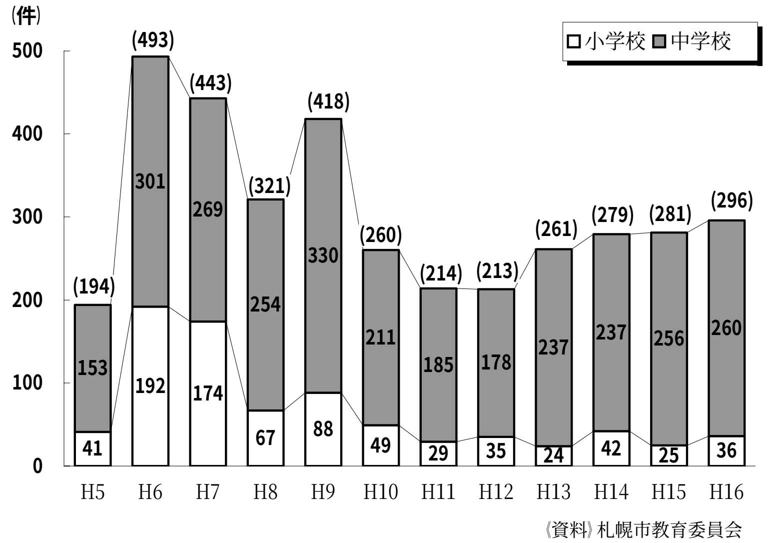
小・中学校におけるいじめの発生件数は、平成6年度にピークを迎え、その後は減少傾向で推移していましたが、平成13年度以降徐々に増加しています。

図２－13　いじめは増えているか



《資料》札幌市広報部
「平成15年度札幌市市政世論調査(札幌市民の子ども観)」

図２－14　いじめの発生件数の推移

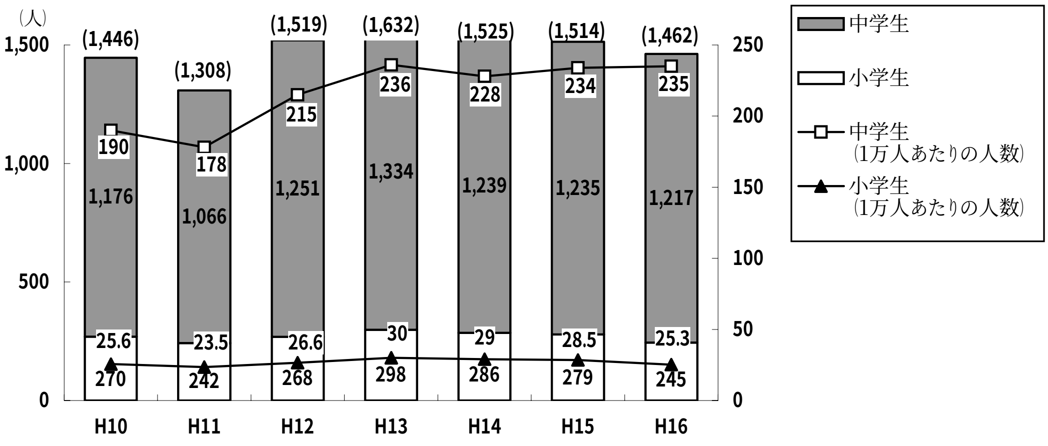


《資料》札幌市教育委員会

（３）不登校

小・中学校における不登校は、平成 13 年以降、実数でみると微減傾向で推移しています。しかし、近年、児童生徒数が減少していることから、児童生徒 1 万人当たりでみると微増傾向にあります。

図２－15　不登校の数



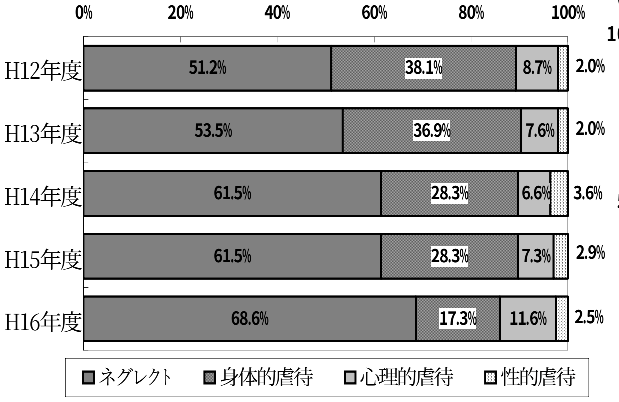
〈資料〉札幌市教育委員会

（４）虐待

札幌市児童相談所における児童虐待の相談件数は、平成 16 年度で 242 件となっています。札幌市の児童虐待の特徴としてネグレクトが多く、近年、その割合が高くなる傾向にあります。

図２－16

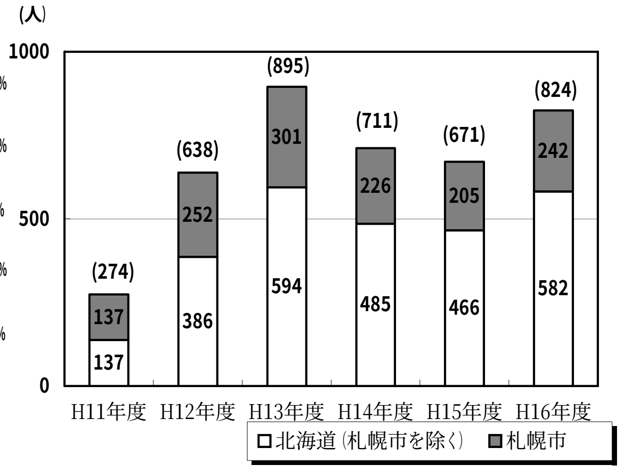
児童虐待相談内容状況



〈資料〉札幌市児童相談所

図２－17

児童虐待の相談件数（札幌市児童相談所）

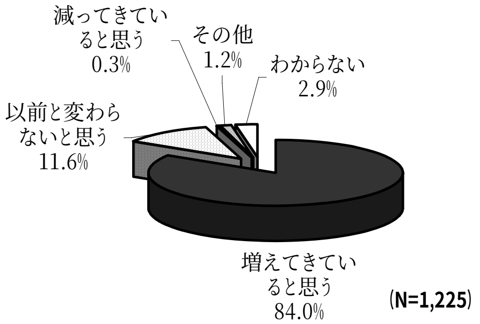


〈資料〉札幌市児童福祉総合センター

（５）少年犯罪

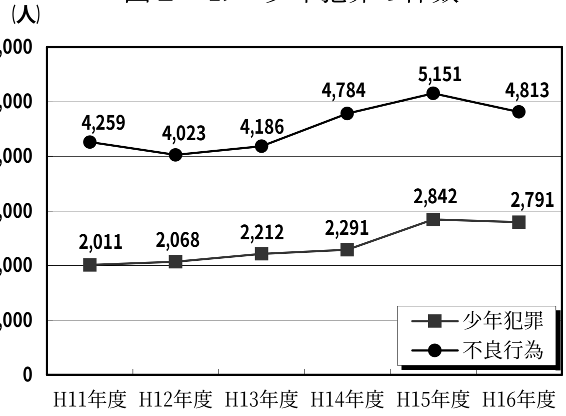
市政世論調査によれば、少年犯罪が「増えてきていると思う」が 84.0%を占めています。札幌市にある 9 警察署のデータをみると、平成 16 年度の少年犯罪は 4,813 件、不良行為は 2,791 件となっています。

図２－18　少年犯罪



《資料》札幌市広報部
「平成15年度札幌市市政世論調査(札幌市民の子ども観)」

図２－19　少年犯罪の件数

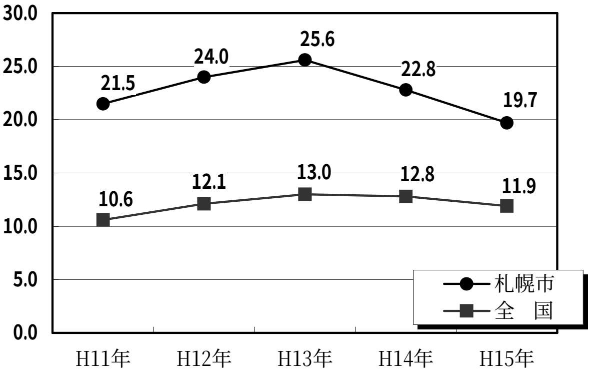


《資料》北海道警察本部

（６）子どもの健康

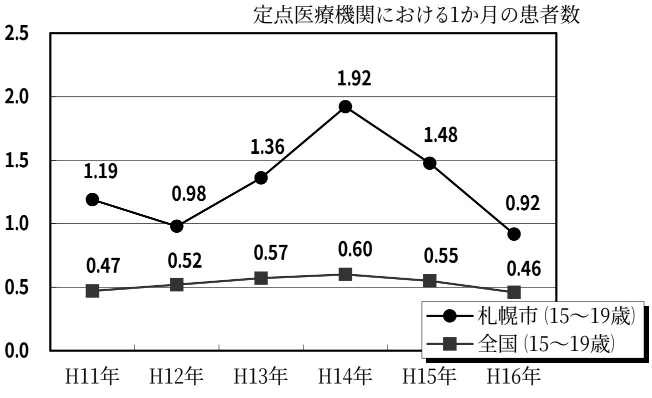
札幌市の 10 代(15～19 歳)の人工妊娠中絶率および性感染症届出患者数は、全国平均を上回って推移しています。

図２－20　10 代の人工妊娠中絶率
(15 歳以上 20 歳未満の女子人口千対)



《資料》「母体保護統計」・「衛生行政報告例」、札幌市保健福祉局

図２－21　性器クラミジア感染症経年変化

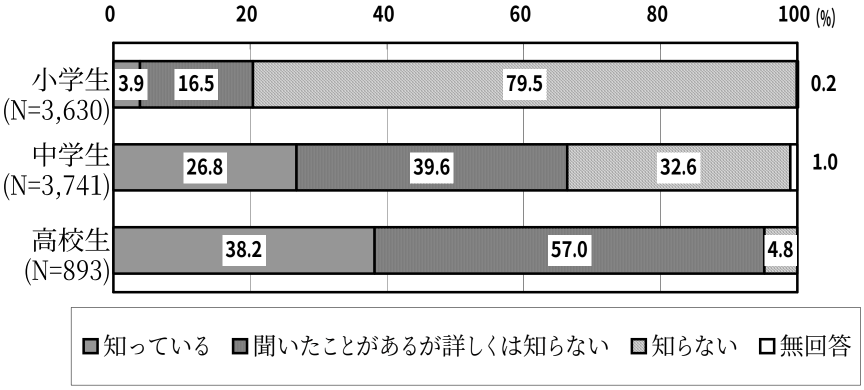


《資料》「感染症発生動向調査」
（あらかじめ定められている医療機関（定点）からの報告）

（7）「子どもの権利条約」についての認知度

札幌市青少年基本調査によれば、「子どもの権利条約」について「知っている」と回答した子どもは小学生が 3.9%、中学生が 26.8%、高校生が 38.2%となっています。

図２－22　「子どもの権利条約」についての認知度



《資料》平成15年度札幌市青少年基本調査